

## 2021年6・7月の活動予定

### 6/3(木)定例会

「青陵の森の整備・観察会」

- 集合 10:00 青陵中等教育学校
- 会員のみ参加可

### 6/10(木)イベント

「芋沢街道歩き」

- ◆芋沢街道の仙台側を登ります
- 集合 9:30 貝ヶ森中央公園バラ園前
- 一般参加募集

### 6/17(木)定例会

「青陵の森の整備・観察会」

- 集合 10:00 青陵中等教育学校
- 会員のみ参加可

### 7/1(木)定例会

「仁田谷地・観察会」※予定変更

- 集合 10:00 K's デンキ仙台西店玄関前
- 会員のみ参加可

くよみ郷土研究会・会報

# くよみ通信

国見ヶ丘

吉成

南吉成

No. 31・2021/06/01

## 芋沢街道筋に残る 横向山遺跡群

(小田記)

5月6日、活牛寺の奥に残る500年前の芋沢街道の旧道を歩いた。

手つかずの林道のような険しい道には、多くの珍しい植物があった。ヒメハギ、ハナイカダ、フデリンドウ…。ヒトリシズカは花実が葉っぱの後ろの隠れるような姿になっていた。

旧道の途中、小高い場所にあった石碑には象形文字のような「馬」のような文字。馬頭観世音石碑だそう。

珍しい花のナツトウダイや可憐な花のオトコヨウゾメやヤマルリソウが咲いていた。カタクリは実をつけていた。

旧道を出て457号線沿いを歩くと草むらの中には水神様の石碑(慶応二年)があった。さらに進んで横向山の階段を登り、大小さまざまな石碑群

8基を見学した(中川継助氏を案内人としてお迎えした)。

一番立派で一番古いものは「明和二年九月二十九日」と彫られた「三面八臂馬頭観世音菩薩坐像」。材質は砂岩で浮き彫り、屋根付き。

457号線を戻りながらツリバナ、エンレイソウ、トウゴクサイシン、ミツバウツギなどを見ることのできた。

道の横には小さな沢が流れていた。

お昼休憩の後は、活牛寺口から権現森遊歩道をパノラマ展望所まで登った。

マイヅルソウはまだつぼみだった。葉に特徴があるエイザンスミレや黄色い花のミツバチグリがあった。

樹木ではタカノツメやマンサクの葉の特徴を知った。ヤマツツジやミヤマシキミの花が咲いていた。

↓ヒメハギ



↓フデリンドウ



↑ヒメシャガも咲いていました

↑中川先生の解説に熱心にメモをとる会員も

## いよいよ本格的な 観察が始まる

5月20日の青陵の森での観察会では、会員が担当する草木の側にテープで目印を立て、本格的な観察活動を始めました。各自のオリジナリティある視点で観察したものを持ち寄

ってきた。





↑セリバオウレン

←会員数が増えて心強い



↑ツツナミソウ(白)



↓目印の竹棒と名称を書いたテープ



↑コゴメウツギ



↑タニウツギ

→ヤブムラサキ



↑コナラの木の幹から、新たな若芽が

り、今年度に何か成果物を制作したいと考えています。  
さかのぼる12日、くよみの会の木村代表の提案を受け、新しく青陵中等教育学校の事務室長になられた鈴木先生とお会いし、草木に目印を付けたい旨を学校に申し入れをしました。  
青葉区中央市民センターの齋田先生、吉成市民センターの葛西さん、舘山さんも同席くださいました。  
その鈴木先生が、20日の活動には顔を見せてくださいました。積極的に関わっていただき、うれしい限りです。

中川継助先生から、5月6日の芋沢街道歩きのレポートが届いております。途中発見した「水神様」についての解説も書かれていますので、先生の了承を得て、参考のために掲載します。  
◇ ◇ ◇  
活牛寺墓地の南西端から下るようして草藪の中に入ると、道跡（芋沢街道跡）が現れる。林の中の道跡を緩やかに下ると、間もなくしてこんもりとした盛り土の上に一基の石碑が建っている。  
一里塚のようでもあるが定かでない。石碑には文字のようなものが刻まれているが、判読できない。  
切通のS字状の道跡を下ると、境界見出標石「二二二」が



仙台市道青葉5210綱木半子町線沿いの小祠 2020.7.22



芋沢側から眺めた境界見出標石「二二二」 2020.7.22



水神碑 2021.5.6



けいおう ひのえとら 慶応二丙寅年(1866年)

設置されている。  
さらに、緩やかに下ると仙台市道青葉5210綱木半子町線に出る。  
この先、国道457号線までの間、街道としての道跡は見られない。  
仙台市道青葉5210綱木半子町線を活牛寺方に上る途中、市道の南側に小祠（焼き物製）が祀られている。  
また、同市道を芋沢方面に下ったところの北側、水が湧き出ているところに水神碑が祀られている。